第１回香川県総合計画の見直しに係る有識者懇談会　議事録（概要）

日時：令和５年１月31日（火）13:30～15:15
場所：香川県庁舎本館21階 特別会議室

◆会長の選任等
　筧委員を会長に推す意見に、拍手による賛同があり、筧委員が会長に就任

◆会長からの指名により、橋本委員が副会長に就任

◆議事
〔会長〕
　本日の議題である、「香川県総合計画の見直しに係る骨子案（仮）」について、事務局から説明をお願いしたい。

（事務局説明）

〔会長〕
　ただ今の説明について、３つの基本方針ごとに御意見をいただくこととしたい。
　まず、「安全・安心で住みたくなる香川を作る『県民100万人計画』」に関して、ご意見をお願いしたい。

〔委員〕
　市民の防災意識を調査するために、1/21(土),22(日)に、ゆめタウン丸亀の１階で、防災に関する相談コーナーを設けるイベントを実施し、店内に入ってくるお客さんにチラシも配りながら誘導していたのだが、若い人たちからはまったく無視された。40～60代の人たちは、家庭で用意しておくべき備品類などの展示を見に来てくれたが、相談コーナーに入ってくれるのは、60～85歳の人ばかりで、延べ100人程度だった。そのうち７割が女性だった。今回のイベントで、若い人の防災意識の低さを改めて認識した。
　また、昨今、全国的に強盗や盗難事件が多発していることなどを受け、地域の要所となるところへ防犯カメラの設置を検討しており、それに当たり、地域のコミュニティに対し少し負担をしてあげて、早急に取り組もうかと考えている。
　この場で話すことか悩んだが、一点お願いがある。私は香川県共同募金会の副会長もしており、大臣表彰を受けることを目指して、これまで募金活動に取り組んできたところ、今年度300万円を突破した。今年も１都23県の団体が大臣表彰を受けており、本県の募金会も、知事表彰をいただけたら大臣表彰へ繋がると考えているので、今後の本県の募金会の活動を頑張っていくためにも、ぜひ検討いただきたい。

〔会長〕
　委員から、安全・安心で住みたくなる香川をつくることに関して、防犯・防災の話も出たが、それ以外にも子育て環境や教育環境といった項目もあるが、何かご意見はあるか。

〔委員〕
　重点政策１『「子育て県かがわ」をつくる』に関して、そもそも結婚を希望する人が減っており、50代男性の未婚率が３割近くになってきているような状況の中で、結婚したくなる香川県、家庭を持ちたくなる香川県というような観点で今も熱心に結婚支援というところから取り組まれているとは思うが、結婚に対してポジティブな印象を持てるような取組みというのも、ぜひ進めていただきたい。
　また、重点政策３『女性や高齢者、障害者が活躍する社会づくり』に関して、子育て分野でも人材不足になっており、子育て家庭の多様化により、保育園の開園時間だけでは賄えない部分が出てきている。海外では、外国籍の方々がベビーシッターとして活躍していることから、女性や高齢者、障害者だけでなく、外国籍の方があらゆる分野で活躍できるステージを用意することで、子育て支援にも資するところがあるのではないかと思う。
　もう一点、資料４骨子案（仮）の12ページの「現状と課題」３パラ目に「長時間労働による仕事と子育ての両立の難しさ」とあるが、「仕事と子育ての両立の難しさ」の原因は、「長時間労働」だけでなく、「仕事が属人化していて休めない」や「在宅勤務できない」といったことも考えられるので、「長時間労働<u>など</u>による」と修正したほうが、取組みの幅が広がると考えられる。

〔会長〕
　コロナで地方への流出傾向となっていた人の流れが、今年に入ってまたコロナ前のように都会へ向くようになっているというような報道を見たが、もっと香川県にも目が向いたらいいなと思う。そういった中、委員から結婚したくなるような香川県、子どもを産みたくなるような香川県をつくるためには、女性が働きながら子どもを育てられる環境を作らないといけないといった意見をいただいた。他にご意見はないか。

〔委員〕
　資料４骨子案（仮）の12ページの「現状と課題」４パラ目の「男性の育児参加」について、育児休暇を取りやすい環境を作ることも、もちろん重要だが、やはり昔から根付いている固定的な役割分担意識というものを直していかないと、育児休暇を取ると周りから何か批判めいたことを言われるといった問題が残っている限りは、いくら環境を整えても男性の育児参加は進まないと思う。
　そこで、できるだけ小さい頃から、例えば、小・中学校において、固定的な役割分担意識を持たない男女共同参画という考え方を子どもたちにも広めていくような教育が必要ではないかと考えている。

〔会長〕
　初等教育と社会システムがうまくマッチするようにしなければいけない。小学校のうちから、父親が子どもの世話をするような動画を見せ続けるといったことも必要なのかもしれない。他に意見はないか。

〔委員〕
　先ほどの会長の話にもあったが、コロナで東京の一極集中が是正されるかと思いきや、また再開しているといった報道を受け、いわゆる「正攻法」でやっていけるのかという思いがある。
　昨日開催された知事と企業経営者との意見交換会でも、企業側の人手不足の話がよく出たと思うが、やはり人をどうするのか、大学進学や高校進学のタイミングで一度県外へ出ても戻って来たくなる、もしくは県外から香川の学校へ来たらそのまま住みたくなる、そういう県をいかに作るかということが求められている。
　例えば、大学生のうちに、子どもを産み育てられる環境を大学で整えるなど、そういった大胆なアプローチもあってもいいのではないかと思う。正攻法ではなく、斜めの視点で考えることも必要ではないか。
　また、香川県は、やはり四国のリーダー県というイメージで政策など考える必要があると思う。四国のリーダーである香川県は、大胆な政策を実験する場所だということをアピールして、国からの補助金なども得ながら多くのモデル事業など実施し、県民100万人に向けてチャレンジいただきたい。

〔会長〕
　大学進学者の８割が県外へ流出してしまうが、彼らをまた香川へ呼び戻すための大胆な政策が必要とのこと。特に女性の流出が激しく、これが本県のボトルネックとなっているように思う。他にご意見はないか。

〔委員〕
　我々香川県が、どのようにして人口を維持するか、出生率を上げること、そして出て行く人を減らすことを進める中で、一番大事なことは、その受け皿を作るということである。
　フランスやイギリス、アメリカ、北欧などは出生率を維持できているが、これは相当高い税金による公的支援が充実していることもあると思うが、それプラスアルファで、現金支給から現物支給に変わっていっていることが大きいと考えている。現金ではなく、子どもを生み育てるためのシステムを作り上げていくということを、長い期間かけて国と一緒に県は検討していただきたい。
　そのためには、子どもが生まれてから、経済的負担なく子どもを預けられる、そして高校出るまでどういった形で、みんなでサポートしていけるかというところを、今の若い人たちは、様々な形で仕事をしており、貧困という問題もあるので、そこをカバーするための仕組みづくりを考えていかなければならない。限られた県の財政では難しいところもあると思うが、他の予算を削ってでも、仕組みづくりに

必要な予算を厚くすることを、広報でアナウンスすることが大変重要だと思う。
　それによって県の人口問題が本当に差し迫っていること、最優先で解決しなければならないという認識を共有したうえで、予算のあり方も含めて県民にお示しし、説明を行うということが大事だと考えている。
　もう一点、経済同友会は、昨年3月、県と高松市の教育委員会と連携協定を結び、県立・市立の高校生と地元企業との結びつきをつくることに向けて動き出したところである。実績としては、坂出高校、高松高校、高松商業高校へ同友会のメンバーが赴き、地元企業の説明や、地域の共通課題などについて話をしてきたが、大学卒業後、地元へ帰ってきてもらえるように関与しているところである。今後も、県や市のご協力をいただきながら、もっと振興していきたいと考えている。

〔会長〕
　高校生に香川県で働くイメージを持ってもらうための取組みを進めていただいているとのこと。ここで、香川県が働く魅力のある県としてどのようにこれから魅力アップすべきか、「デジタル田園都市100計画」に関する意見をいただきたい。

〔委員〕
　勤務環境に関して意見したい。休みが取れる環境というのが大事と考えており、例えば香川県の企業は有給休暇の取得率が多い、年間休日が多いというようなことがPRできれば、若者に香川の企業は違うと認識され、選ばれる企業になれると考えられるし、無理なく休みを取れることが育児参加などにも大きく繋がってくると考えられるので、企業や地域にそういったポジティブな働きかけを行い、休みが取りやすい環境を整えることにはメリットがあるというような雰囲気をつくることが重要だと考えている。
　一方で、人手不足が叫ばれている昨今、休みが取りやすい環境を整えることは難しいと考えられるが、DXの活用など的確に助言できる仕組みを作ったり、優良事例の水平展開などを進めることにより、休みが取りやすい環境づくりを香川県全体へ広げることができれば、香川県の定住人口の増加につながるのではないか。

〔会長〕
　デジタル化を進めることにより業務量が減り、それを有効に休む方向へシフトできればよいが、一方で生産性の維持・向上も図らなければいけない。その辺りを上手くマネジメントできないと、休みは取りにくい上に生産性は低いといったこととなり、そのような中小企業はじり貧となってしまうだろう。

〔委員〕
　デジタル人材に関して意見したい。資料４の骨子案の40-41ページに「デジタル人材」という文言があるが、デジタル人材というと、理系に進む男性が多いこともあり、男性比率が高いと思うが、積極的に女性のデジタル人材の強化という視点を取り入れていただきたいと感じている。

これにより、より柔軟な働き方が可能となり、女性活躍にも資すると思うし、理工系女子の育成にも繋がってくるのではないかと思う。
また、誰一人取り残さないための施策としては、高齢者だけではなく、経済的事情によるデジタル活用が困難な方もいらっしゃると思う。これについて、香川県に現在どれぐらい該当する方がおられるのか、まだ把握していないと思うので、ぜひその実情の把握についても検討いただきたい。
もう一点、「県民」という言葉の定義について、資料中に「年齢や性別、障害の有無に関わらず」という文言が何度か出てくるが、ここに外国籍の方は含まれるのか。骨子案36ページで、在留外国人は、県人口の1.5%を占めていることが示されており、今後も増加傾向にあるのではないかと思うが、そうした中で、グローバルな視点やダイバーシティという観点から見ると、在留外国人も、県民に含めて考えていくことも、必要ではないかと考えている。「年齢や性別、障害の有無に関わらず」という文言には、国籍について触れられていないことから、外国籍の方は県民から排除しているように見えてしまうのではないかと懸念される。

〔会長〕
東京23区内の大学は、新しい学部・学科は作れない23区規制というのがあるが、デジタル人材の分野に関しては例外とする話も出てきており、そうなると一層東京へ若い女性が流出すると懸念されるので、香川県でも女性にフォーカスしたデジタル人材の育成に向けた新しい教育組織を作ってもいいのかもしれない。
また、外国人に関して、四国の中で香川県が一番外国人の数が多いし、毎年少しずつ増えているが、今のところ肉体労働に従事している方が多いので、今後は知識労働に携わる方を県内で増やしていくような仕掛けも必要と考える。人口減少対策として在留外国人を増やすという点で言えば、香川県はアドバンテージがあるように思う。

〔委員〕
農業について、今課題と考えているのは、香川県で作った出来の良い農産物を東京や大阪へ持っていっても、非常に競争が激しく、価格も乱高下し、経営が安定しないという点である。そこで、出来の良い農産物は、香川県でしか食べられない、香川に来たら、出来のよいものが食べられるというような仕組みができないかと考えている。これは、なかなか我々だけではできないことなので、行政とも力を合わせてやっていきたいと考えている。
もう一点、質問だが、資料４骨子案12ページに、「子育て県かがわ」とあるが、うどん県、アート県の次は「子育て県かがわ」でいくのか。確認させてほしい。

〔知事〕
うどん県、アート県の流れで「子育て県」としているわけではない。

〔会長〕
　大変重要な意見をいただいた。三重県では、高級食材がすべて中央へ売られていき、地元の人の口に入っていなかったため、三重大学のある方が、地元の企業などと協力して、三重県で高級食材が食べられる仕組みを作ったという話を聞いたことがある。本県でも同じような仕組みを作れる可能性はあるかもしれない。農業の話が出たが、漁業はいかがか。

〔委員〕
　香川にきたらおいしいものが食べられるというのは、漁業でも言える話だと思う。ホテルや旅館、観光業者の方と協力して、県外から来られた方においしいものを食べていただこうという取組みを続けていれば、香川の住みやすさや温かさも知っていただくこととなり、香川への移住につながるようなこともあるのではないかと感じた。

〔会長〕
　観光という切り口でいえば、香川だけで完結させる必要はなく、香川は四国全体を周遊する起点になるといった宣伝の仕方もあると思う。NHKでは、四国４県のいろいろな場所を探訪する番組を放送しているが、やはり観光に関しては香川だけで閉じないで、長く四国に滞在いただき、四国全体を周遊いただくように進めるのが良いと思う。何か補足いただけるような意見はあるか。

〔委員〕
　アフターコロナでは、遍路が一つの大きな観光における財産になるという話がある。海外から高付加価値の観光として、長くその地域に滞在し、いろいろな体験ができるという観点でいうと、やはり遍路はこれからすごく注目されると考えられる。そのような中、いかに香川だけで完結せずに、遍路を体験いただきながら、隣県も取り込んだルートを作るなど、そのような可能性はすごくあると思う。
　香川の財産というとやはり高松空港であり、海外との航路も、知事はじめ皆様のご尽力で、とても充実しているので、高松空港から入ってきた海外の方々を、香川はもちろん、さらに付加価値を高めるために、隣県も含めたルートを作るというのも一つの手ではないかと考える。

〔会長〕
　アフターコロナの話が出たが、これから５年10年は、コロナが拡大したり収まったりを繰り返すような中、生活していくことになる可能性があると思う。そのような中、グランピングなど、外で過ごすことを選ぶ人も増えている。これからの旅行の形は、ツアーなど決められたものではなく、オリジナルの時間の過ごし方を作ることが流行になると考えており、その時間を過ごす先として香川県に目を向けてもらい、一度香川にハマると、なかなか抜け出せない香川県、みたいな尖った取組みを考えてもよいかもしれない。

〔委員〕
　先ほどから話に出ているが、四国全体で取り組むということが一番大事であり、それにより、四国内外を高速道路で、あるいは今後新幹線でつなぐという話にもなっていくと思う。国際線については高松空港がいち早く復活したが、それによる効果を香川だけに閉じてしまわず、四国全体を周遊いただき、あらゆるところで消費いただくということが肝要であると考えている。
　香川県の人口が１人減ると、年間消費が130万円ほど減るわけだが、海外から１人観光客が訪れると、15万円ほどの消費があるという。つまり、海外観光客が８名来られると、香川県の人口が１人減っても、消費という面では、カバーできることから、観光産業は、先ほどから出ている人口減少問題への対策も兼ねる大事なファクターであると考えている。

〔会長〕
　ありがとうございます。他にご意見はあるか。

〔委員〕
　観光でいうと、先ほど話も出ていたが、突拍子もない視点が必要と考えており、香川県でしかやらない、世界中から人を集められるようなイベントを作る、もしくは招致することを検討すべき。香川県は観光地としてある程度知名度も上がっており、栗林公園や紫雲出山、瀬戸内海などだいぶ周知されているので、新たな目玉が必要と考える。
　また、高松空港の国際線についても、今はアジア圏が中心なので、2025年の大阪万博やサンポートの新ホテル開業などを見据えて、思い切って欧州から路線を呼び込むなどしていただければと思う。
　もう一点、基本目標「人生100年時代のフロンティア県」ということなので、やはり健康寿命を延ばすことについて、もっと具体的に書いてほしいと思う。
　あと、女性の活躍推進に関して、育児休暇が終わっても保育所が決まらず復帰できないという女性も多いので、育児支援についてもっと重視してほしい。なお、小学校３年生までの医療費の無料化に向けた県の動きについて、各市町にインタビューしたところ、その他の施策も充実させたいといった話もあり、非常によい流れになってきていると感じている。
　最後に一点、最近「嫁ターン」という話があり、県外へ流出した若い女性が、夫を連れて帰ってくるという話も少しずつ増えていると聞く。一方で、夫の給与も下がって、勤務先は多くあるが、自分のスキルを活かせる職場が見つからないなどの問題がある。また、市町の月額いくらの支援制度を利用しようとしても抽選等により十分に恩恵を受けられていない、という話も聞くので、移住者への支援強化というのも取り組んでいただきたい。

〔会長〕
　今、育児・保育の話もあったが、これに関して他にご意見はないか。

〔委員〕
　先ほど、育児休暇から復帰できない、保育所に入れない問題があるというお話があったが、現場からの意見としては、やはり人材が不足しているというのが一番大きく、年度途中から保育所に子どもを預けることに対し、保育士の確保ができていないため、受け入れができないということになっている。
　潜在保育士や保育の仕事に携わりたい方が、勤務時間などにおいて柔軟に働ける環境を整えるような取組みをしてもらえたら、保育所においてコロナなどで職員が急遽お休みすることになった際に、力を借りることができると考えられる。
　昨今の保育士による虐待のニュースのようなマイナスのイメージばかりでなく、子どもを保育する楽しさ、保育士は子どもの成長を見守るとてもやりがいのある仕事であることなどを多くの人に知ってもらうような取組みに力を入れていただきたい。

〔会長〕
　潜在保育士の掘り起こしに関する取組みを見直してはどうかという話だった。これは看護師も同じことが言えるかもしれないが、一度現場を離れてしまった人を後押しするような取組みが必要かもしれない。
　環境に関する話が出来ていなかったが、何かご意見はないか。

〔委員〕
　環境の話をする前に、昨日、自転車に乗っていらっしゃったお年寄りの方が、後ろから車で当てられたというニュースを見た。
　自転車は左側通行とされているが、とても危ないと感じることがある。向かいから自動車が来たらすぐ止まることができるが、後ろからの自動車は見えないので、すぐに止まることができない。特に亀田町の旧街道のような道幅が狭いところでは、水路や路面に凹凸があったりして、左側で走って大丈夫かと思うこともあり、非常に危なく感じている。他にも同じような道路があるかもしれないが、何かしら対策を考えていただきたい。
　環境の話でいうと「重点政策⑬グリーン社会の実現」や「重点政策②教育の充実」に関係するところかと思うが、給食で出される牛乳瓶についてお話ししたい。香川県は、もともと牛乳瓶を採用する学校が89.3%（平成23年度）と全国的にも多かったが、最近学校などで話を聞くと、牛乳瓶から紙パックに変更した学校も多いようである。
　牛乳瓶は県も推進しているリユースが可能であり、廃棄物も発生しないので、持続可能な循環型社会にかなうものである。また、最近では牛乳瓶も軽量化しており、重さというデメリットは減少している。
　海ごみで一番問題となっているのはストローだが、紙パックには必ずストローが付いているので、ストロー削減のためにも、牛乳瓶の利用は大事ではないかと思う。また、リサイクルするため、紙パックは洗う必要があり、アレルギーのある生

徒にも注意しないといけないといったデメリットもあるので、県全域で牛乳瓶を利用するようになってほしいと考えている。

〔会長〕
　まだ、御発言をいただけていない方で、何かご意見はないか。

〔委員〕
　私はさぬき市に住んでいるが、さぬき市は平賀源内の生誕地なので、観光などで平賀源内を取り上げていただければありがたいと考えている。

〔委員〕
　働き方改革の中で女性が働くうえで、やはり保育と女性の仕事というのはどうしても切り分けることができないと思う。保育所などは４月入所というのが多いが、４月は慣らし保育のため２時間ぐらいで子どもが帰ってくることから、実際に育児休暇から復帰される人は５月復帰となっている。現場としては、やはり４月からの復帰を期待しているところもあり、そういったときにも潜在保育士の活用ができないかと考えている。
　私は看護協会長もしているが、今回のコロナ対応で看護師を募集すると、かなり潜在看護師はいることが分かった。その方々は普段は仕事していなかったわけだが、コロナ危機に手伝っていただけたというようなこともあるので、短期間での勤務なら対応できるという方もいるのだなと思った。
　一方で潜在の方々に長く働いてもらおうとすると、「扶養の範囲で」と言われる方も多く、コロナ対応のように勤務単価が高いような場合は働けないというようなこともあり、今回のコロナで働くことについて、いろいろ感じた次第である。そういった潜在の方々の活用の仕方や勤務環境、処遇などについて、また一緒に考えていただければと思う。
　もう一点、11月に看護協会関係の全国会議で、香川についてお話をするチャンスがあり、そのときに、自分自身も香川のことを意外と知らなかったなと感じた。そのような経験から、県民全員が広報大使みたいになれるように、県民が香川のことをもっと知って、香川を好きになり、県外の人たちへ話すことができるような教育があったらいいなと思った。

〔会長〕
　最後に副会長からご意見をいただきたい。

〔委員〕
　見直し後の計画骨子案について、全体的に項目をかなり絞っており、現行計画から内容的に変わったという印象がある。
　現行の総合計画に記載している施策について、計画期間が満了する令和７年度までに、全部やることは難しいのではないか、かなり絞る必要があるのではないかと

思っていたが、今回の骨子案を見て、内容をかなり集約されているように感じた。その中で、今、香川県は何を一番優先して取り組まなければならないのか、というと、今回の骨子案では「人生100年時代のフロンティア県」の実現に向けた人口減少対策ということになろうかと思うが、これはもう必死になっていろいろと取り組まないと、人口減少という局面は、すぐには変わらないと思う。

したがって、その目標に向けた重点政策項目は、多くあってもいいとは思うが、その中でも「特にこれとこれは力を入れて取り組む」といった決意みたいなものが見えるとよい。今はまだ骨子案だが、これから策定を進める中で、計画期間が満了する令和７年度末までに、ここまではやるというのが見えるような内容としてほしい。

そのような中で、大学側としては、これから県内の大学はどのようにあるべきか、その位置づけについて改めて考えないといけないと感じた。このまま県外に大学進学者を流出させる状況のままでいいのか、それは仕方ないとした場合、その後どうするのかという部分をはっきり打ち出したほうがいいと感じた。

香川県に来られた方は皆いいところだと言ってくれるが、来てくれるまでが難しい部分があるので、それをどのよう取り組んでいくのかということを集中的にここ３、４年で考える、そういうプランになればよいと思った。

〔会長〕

大局的で大変興味深い意見だった。これで委員全員から発言いただけたと思うので、これで第１回懇談会を終えたい。司会へお返しする。